

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
カワト マリカ 河本 毬馨	女	1993年	助教	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	博士(図書館情報学)	専門分野	図書館情報学、人文社会情報学	
学 歴	2016年 3月 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 卒業 2016年 4月 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 博士前期課程 入学 2018年 3月 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 博士前期課程 卒業 2018年 4月 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 博士後期課程 入学 2023年 3月 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 博士後期課程 卒業			
実 務 経 験	2016年 4月 筑波大学 ティーチング・アシスタント(TA)(~2021年7月) 2018年 7月 放送大学 ティーチング・アシスタント(TA)(~現在に至る) 2019年 4月 文教大学 非常勤講師(~2022年9月) 2019年 7月 筑波大学 リサーチ・アシスタント(RA)(~2022年2月) 2022年 4月 山梨英和大学 人間文化学部 人間文化学科 助教(~現在に至る)			
受 賞 歴	2018年 3月 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 研究科長表彰			
所 属 学 会	2018年 日本図書館情報学会 2018年 三田図書館・情報学会 2018年 日本図書館研究会			
特 免 資 格 等 ・ ・	2014年 3月 司書 2014年 2月 Microsoft Office Specialist Excel 2010 2014年 2月 Microsoft Office Specialist Word 2010			
e-mail	marika@yamanashi-eiwa.ac.jp			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

教育業績

教育理念、方針、方法	<p>教育理念として、以下の3点を掲げる。</p> <p>①特定の知識とその周辺領域の知識を合わせて教えることで、体系的な知識習得を促進する</p> <p>②できる限り最新の情報を提供することや体験的学習を取り入れることなどを通して、自主的かつ継続的な学習への意欲を醸成する</p> <p>③アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を通して、他者の意見を聞き自分の考えを述べる機会を積極的に提供する</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>対面授業、オンライン(リアルタイム形式)授業、オンライン(オンデマンド形式)授業それぞれの教育方法について経験がある。</p> <p>例えば、「図書館サービス概論」では、2019年度に対面授業を行い、2020年度は新型コロナウイルスの影響によりオンライン(リアルタイム形式)授業、2021年度はオンライン(オンデマンド形式)授業を行った。</p> <p>2019年度の対面授業では、PowerPointを用いた授業スライドと要点のみをまとめた配布資料、コメントシートを利用して講義を進めた。コメントシートでは授業に関して議論のある事項について毎回お題を出し、それについての意見を述べさせた。これらの意見は集約した上で次回の授業の冒頭で公表する形式を取った。なお初回の授業でコメントシートの内容は匿名で紹介することがあることを説明しておき、相対する意見の代表や、よく練られたアイデアについて逐一取り上げた。また特筆すべき事項として、大学図書館と連携して見学ツアーを開催した。これは講義で学んだ知識を深めること、また実際に働く司書と交流することで新たな発見をしてもらうことを目的として行った。受講生は司書の仕事の様子を見学して解説を聞いたり、書架整理を体験したり、質疑応答の時間を通じて図書館の仕事を理解した。</p> <p>2020年度のオンライン(リアルタイム形式)の授業はZoomを用いて、授業スライドを画面共有しながら講義を進めた。受講生の人数を考慮して、通信の安定を確保するため受講生のマイクとカメラはオフの状態を実施したが、スタンプやチャット等でリアクションを取ってもらうことでコミュニケーションを図った。manabaを利用して配布資料を提供し、レポート機能を用いてコメントシートを提出させた。</p> <p>2021年度のオンライン授業はオンデマンド形式となった。事前に授業動画を撮影した上で、manabaを通して動画、配布資料を提供し、レポート機能を用いてコメントシートを提出させた。リアルタイムでの受講生とのコミュニケーションが困難となってしまったため、コメントシートを振り返る時間を多少増やしてなるべく多くの学生の意見を取り上げることとした。これは最終回の際、受講生から「授業へ参加しているという感じがしてよかった」などの感想が得られたため、有効であったと考えている。また、前年度は断念した大学図書館見学ツアーを、①図書館HPからの情報収集、②受講生から大学図書館員への事前質問と回答、③各受講生による大学図書館見学、④小レポート提出、⑤受講生から大学図書館員への事後質問と回答、という流れで実施した。司書と直接交流ができなかったこと、裏方の作業の見学ができなかったことなど課題は残ったが、大学図書館への理解を深めることはできたと考えている。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等 特になし</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等 特になし</p>
担当授業科目	生涯学習概論、図書館情報技術論、情報サービス演習II、図書館基礎特論、図書館サービス特論、図書館情報資源特論、知的財産権と情報倫理、メディアサイエンス概論
代表的シラバス	<p>【図書館情報技術論】</p> <p>概要： 図書館では数多くの情報技術が活用され、日々多くの情報通信が行われています。この授業では、図書館で用いられるインターネット、データベース、情報検索などの情報技術の仕組みや概要を学び、かつ実践的に身につけることを目的としています。講義形式だけでなく、Webページやデータベースの作成、論理演算の式を組み立てた情報検索を実施する演習形式の授業を含みます。</p> <p>到達目標： 1. データベースの仕組みを説明でき、場面に応じた適切なデータベースを選択できる。 2. HTMLを用いてWebページを作成できる。 3. 情報検索の論理演算を理解し、適切な式をつくることができる。</p>

教育改善活動	講義型の授業においては、受講生に毎回コメントシートを提出してもらい、授業に関する質問や意見などを随時受け付けている。これにより学生の理解度を確認し、別の観点からの説明が必要な事項や補足を加えておくべき事項だと判断したものについては、次の授業で全体に向けた追加の解説を行っている。また、多くの学生から反応がある事項に関しては、出来るだけ解説や補足説明に時間を割き、その時々での学生の興味関心にも柔軟に対応している。
教育能力に対する評価	(1) 学生による授業評価 図書館情報技術論では、授業全体の満足度に関する「この授業は、全体として満足できる授業だった。」という質問に対し、「強くそう思う」が41.7%、「そう思う」が58.3%(合計100%)であるなど、高い評価を得ている。 (2) 同僚教員等による授業評価 着任初年度であるため未実施。

研究業績

研究の特徴	公共図書館を中心として、サービスや運営、政策などに焦点を当てた研究を行っている。現在は「場としての図書館(Library as Place)」概念を主要なテーマとしている。この概念は、図書館を単に本や情報の保管庫、提供者と捉えるのではなく、どのような物理的・抽象的な「場」として機能しているものなのかという観点から捉えることを特徴としており、現代における図書館の存在意義を検討する上でも重要視されている。
研究経歴	2015年 図書館内の飲食可否に関する実態調査 2016年 公共図書館内の飲食可否に関する利用者の意識と利用実態及び図書館の周知方法 2018年 公共図書館における「場としての図書館」の機能と役割の解明
研究実績	(1) 著書 特になし (2) 学術論文 河本稔馨, 辻慶太. 図書館内の飲食可否に関する実態調査. Library and information science. 三田図書館・情報学会. Vol. 79, pp. 85-107, 2018.(査読有) Marika Kawamoto and Masanori Koizumi. Library as place: conceptual model for public libraries and their transition. Journal of Documentation. Vol. ahead-of-print, No. ahead-of-print, 2022. https://doi.org/10.1108/JD-02-2022-0046 .(査読有) (3) その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等) 【国際会議発表】 Marika Kawamoto and Keita Tsuji. "Effects of Allowing Food and Drinks in Japanese Libraries," Proceedings 2016 5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics, pp.43-48, 2016.(査読有) Marika Kawamoto and Masanori Koizumi. "Dimensions of Library as Place: A Qualitative Content Analysis," Proceedings of the XXVII Bobcatsss Symposium, pp. 444-451, 2019. (査読有) Ryoko Uragami, Tomoya Igarashi, Marika Kawamoto, Issei Suzuki, Masanori Koizumi and Keiko Sakai. "Development of reading-related programs for teenagers: a survey of components of teen services in Japanese public libraries," Proceedings of the XXVII Bobcatsss Symposium, pp. 308-316, 2019. (査読有) Marika Kawamoto and Masanori Koizumi. "The roles of "library as place" for providing reliable information in the democratic society," Information management fake news and disinformation proceedings book BOBCATSSS2020, pp. 202-208, 2020.(査読有)

研究実績	<p>Natsume Hanajima, Yuki Sugeno, Marika Kawamoto, Masanori Koizumi and Michael Widdersheim. "Public Libraries as Discursive Spaces: A Review of the 'Discussion' Concept in Public Sphere Literature," Information management fake news and disinformation proceedings book BOBCATSSS2020, pp. 173-183, 2020.(査読有)</p> <p>Waka Takashima, Juri Katano, Yuki Sugeno, Marika Kawamoto, Tomoya Igarashi and Masanori Koizumi. "The characteristics and roles of "library as place" in Japan". BOBCATSSS 2022. Debrecen, Hungary, 2022-05-23/25, BOBCATSSS. 2022. https://doi.org/10.5281/zenodo.6488684. (査読有)</p> <p>Marika Kawamoto, Motoko Yamagishi, Håkon Larsen and Masanori Koizumi, "Promoting public libraries as democratic spaces through governmental and municipal library strategies: Norwegian library strategies post 2014 law changes", Proceedings of CoLIS, the 11th. International Conference on Conceptions of Library and Information Science, Oslo, Norway, May29 - June 1, 2022. Information Research, 27(Special issue), paper colis2226, https://doi.org/10.47989/colis2226. (査読有)</p> <p>【国内学会発表】</p> <p>河本稔馨, 辻慶太. 公共図書館内の飲食可否に関する利用者の意識と利用実態及び図書館の周知方法. 日本図書館情報学会春季研究集会. pp. 7-10. (査読無)</p> <p>五十嵐智哉, 橋本ひとみ, 河本稔馨, 小泉公乃. 北欧の公共図書館におけるイベント: ダイクマン図書館を対象とした事例分析. 日本図書館情報学会春季研究集会, 2020. (査読無)</p> <p>Marika Kawamoto, Masanori Koizumi. Conceptual modelling of "library as place" in public libraries, Tsukuba Global Science Week 2020, 2020. (査読無)</p>
競争的資金採択課題	<p>1) 公共図書館における社会的分断を乗り越えるための<場>としての機能と役割に関する基盤的研究(サントリー文化財団 2019年度「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」2019)</p> <p>2) 21世紀における社会分断克服空間としての図書館に関する総合的研究(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020年4月 - 2023年3月: 研究分担者)</p>
学会等発表・役員参加	<p>2016年 7月 Marika Kawamoto and Keita Tsuji. "Effects of Allowing Food and Drinks in Japanese Libraries," 7th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2016). Kumamoto, Japan.</p> <p>2018年 5月 河本稔馨, 辻慶太. 公共図書館内の飲食可否に関する利用者の意識と利用実態及び図書館の周知方法. 日本図書館情報学会春季研究集会. 東京.</p> <p>2019年 1月 Marika Kawamoto and Masanori Koizumi. "Dimensions of Library as Place: A Qualitative Content Analysis," BOBCATSSS 2019. Osijek, Croatia.</p> <p>2020年 1月 Marika Kawamoto and Masanori Koizumi. "The roles of "library as place" for providing reliable information in the democratic society," BOBCATSSS2020, Paris, France.</p> <p>2020年 9月 Marika Kawamoto and Masanori Koizumi. Conceptual modelling of "library as place" in public libraries, Tsukuba Global Science Week 2020, Ibaraki, Japan. (ポスター発表)</p> <p>2022年 5月 Marika Kawamoto, Motoko Yamagishi, Håkon Larsen and Masanori Koizumi, "Promoting public libraries as democratic spaces through governmental and municipal library strategies: Norwegian library strategies post 2014 law changes", the 11th International Conference on Conceptions of Library and Information Science, Oslo, Norway.</p>
受託共同研究の実績	特になし
大学院生指導	特になし

研究 する 能力 評価に	2018年3月に図書館情報メディア研究科研究科長表彰を受賞している。
-----------------------	------------------------------------

サービス活動業績

学内 委員会・ 作業部 等活動 実績	年 月 年 月 年 月 年 月 年 月 年 月 年 月	
アドバイザー活動実績		特になし
後進育成活動実績		特になし
社会 貢献 活動		(1)講演会 特になし (2)出前講座 2022年 11月 山梨県立白根高等学校「司書・学芸員のお仕事」講師 (3)公開講座 特になし (4)学外審議会・委員会等 2023年 2月 山梨県図書館協議会 委員(～現在に至る) (5)その他 特になし

成果と目標

専門的 成果	①公共図書館、大学図書館における全国的な館内飲食調査を行い、その成果を査読付き学術雑誌にて報告した。 ②「場としての図書館」に関する研究を実施し、その成果を査読付き国際ジャーナルにて報告した。 ③質的研究手法(質的内容分析)のプロセスについて批判的に検討を行った。
専門的 目標	①現在進めている主要テーマに関わる研究論文をまとめ、国際ジャーナルに投稿する。 ②地域の図書館関係者との連携を深め、図書館運営の実態を把握するとともに、研究活動を通して得られた最新の知見を還元する。 ③図書館司書への進路希望をもつ学生に対して、専門的支援を行う。

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------